

# すてっぴ

練馬区立男女共同参画センターえーる 図書・資料室

NO.30 平成23年(2011年) 2月

〒177-0041 練馬区石神井町 8-1-10

☎ 03 (3996) 9005 (代表)

<http://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/keihatsu/jinkendanjo/joseicenter/index.html>

## 知っていますか? ワーク・ライフ・バランス

約8割が「内容までは知らない」と回答

(平成21年12月内閣府調査)

ひとつ「働き方」を変えてみよう!



カエル! ジャパン  
Change! JPN

### ワーク・ライフ・バランスとは

男性も女性も、若いも若きも あらゆる人のためのもの

人生の段階に応じて希望する「バランス」を決めることができるもの

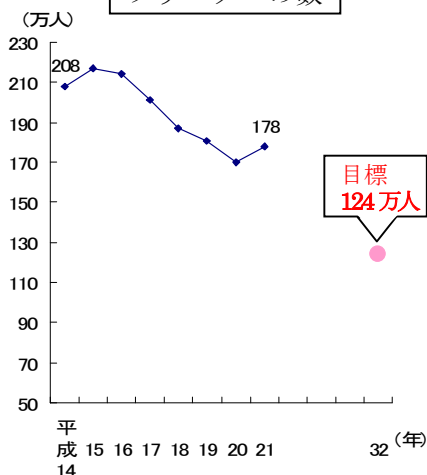
「仕事の充実」と「仕事以外の生活の充実」の好循環をもたらすもの



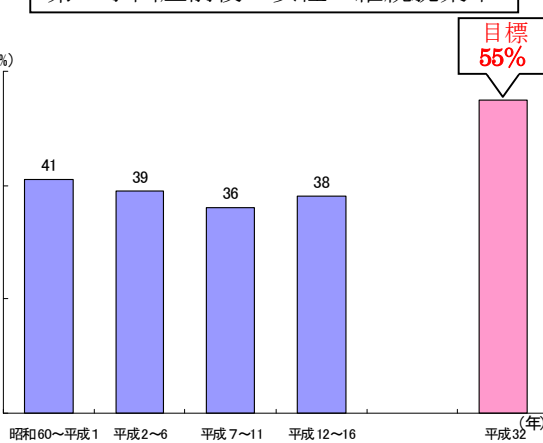
多様性に富んだ活力ある社会

### ワーク・ライフ・バランス 実現の状況&数値目標 (抜粋)

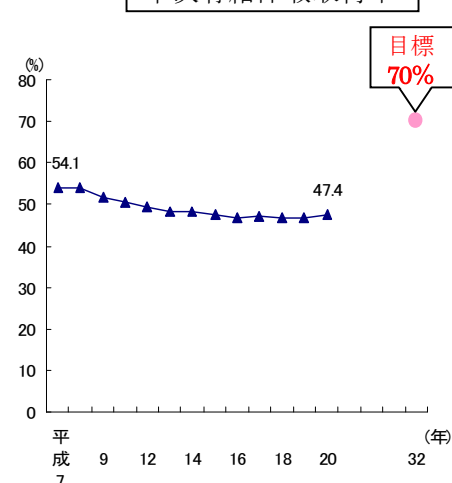
フリーターの数



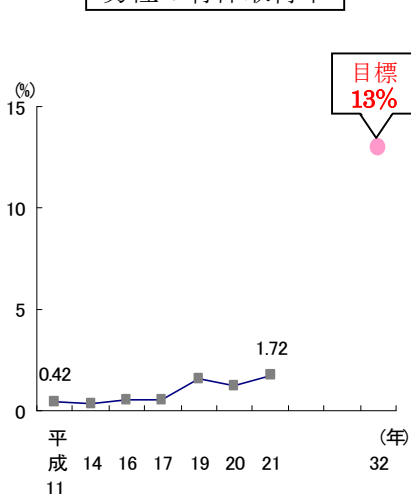
第1子出産前後の女性の継続就業率



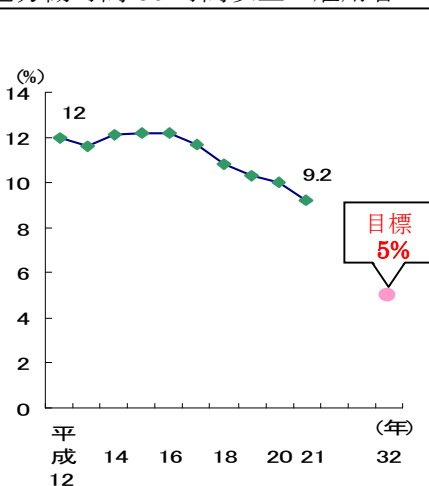
年次有給休暇取得率



男性の育休取得率



週労働時間 60 時間以上の雇用者の割合



国は、ワーク・ライフ・バランス実現のために、育休や有休の取得率向上など 14 項目の指標と平成 32 年の目標値を設定しています。働くことによる経済的自立の実現や、健康で豊かな生活のための時間の確保、また多様な働き方や生き方の選択ができるようにするため、一層強力に取り組を進めることが求められています。4 月からは 101 人以上の企業にも、労働時間短縮などワーク・ライフ・バランスのための行動計画策定(次世代育成支援対策推進法改正)などが義務付けられます。

出典：内閣府「仕事と生活の調和レポート 2010」

# 時代を拓いた女たち



しづき  
素木しづ 明治二八年(一八九五年)〜大正七年(一九一八年)

自分は自分の一生を

自分で取り決めたのであって

それが運命なのじゃない。

明治二八年北海道札幌に生まれる。父は小学校校長であったが、しづが四歳の時他界し、母や兄弟に育てられる。もともと身体が弱く十五歳の時、登山で転倒したのが原因で結核性関節炎となる。姉を結核で亡くしているしづにとって衝撃的運命であった。療養のため上京するが、十七歳で右足を膝上で切断。松葉杖をつく暮らしを余儀なくされ、周囲から好機のみで見られる中、母から尼になることを勧められる。

しづはどう生きるか煩悶し、この悲運を乗り越えようと文学を志した。森田草平に師事し「松葉杖をつく女」「三十三の死」などを発表。死を思うことで現在を生きようとする女のはかなくも健気な心を描き、しづでなければ書けない世界をつぎつぎと発表。大正四年二十歳、周囲の反対と不安を押し切って無名画家、上野山清貴と結婚。同年師走、女兒を出産。これまで「私には何一つ出来ないことはありやしない」と強気に生きてきたが、我が子が母と手をつないで歩くことが出来ず、「なんとこの悲しみの日だろう」と書いている。出産後も精力的に執筆し、「赤ちゃん」など多くの短編を発表。大正六年、自伝的長編「美しき牢獄」などを発表し、充実した生活を送り新進作家として世に知られていく。

大正七年結核が再発し、伝染病研究所に入院するものそのまま帰らぬ人となった。享年三二歳であった。

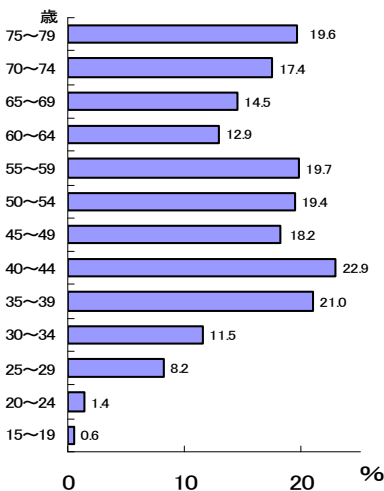
素木しづは文学史上僅かに記されているだけだが、女の生き方を懸命に求めた作家であった。早世するまでの僅か四年半に単行本四冊、作品六十編余を遺した。作品全体を通し、身障の身にあるものがなぜ世に出てはいけないのかと、身障者への偏見に対する抵抗がみられる。

【参考図書】「薄命の作家 素木しづの生涯」「先駆者たちの肖像」

## 「子宮頸がん」ってどんな病気？

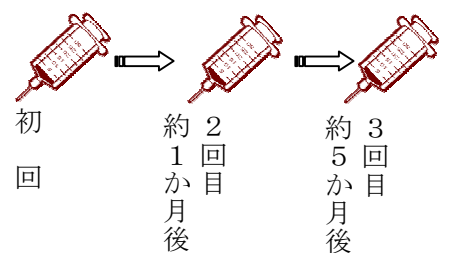
子宮がんには、おもに2種類のがんがあります。子宮の奥の粘膜にできる子宮体がん、子宮の入り口にできる子宮頸がんです。子宮頸がんは、日本では、新規発症者が年間8500人、死亡者が、約2500人といわれており、20代〜30代の発症者が増加しています。原因は、発がん性ヒトパピローマウイルス(HPV)への感染によるもので、性交渉による感染が多いと考えられています。HPV感染そのものはまれではなく、感染しても多くの場合症状のないうちにHPVが排除されると考えられています。排除されなかったものが、がんになるまでには、感染してから数年から十数年かかります。発がん性HPVは、15種類ほどありますが、HPV16型と18型の2種類が60〜70%の発症者から検出されています。現在の子宮頸がん予防ワクチンは、この2つのウイルスの感染を予防するものです。

年齢別子宮頸がん罹患率 (人口10万人対 平成17年)



練馬区では中学3年生の女子を対象に、子宮頸がん予防ワクチンの接種費用を助成しています(接種費用は無料)。対象の方には案内を送付しています。

接種は半年の間に3回




【お問い合わせ】

健康部保健予防課予防係 TEL: 03-5984-2484(直通)

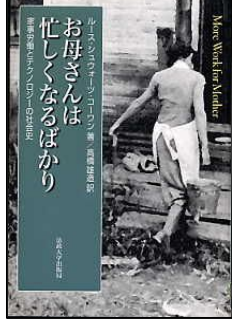
参考資料: 練馬区HP 国立がん研究センターがん情報サービス

# 新着図書




**女性学入門**  
杉本貴代栄編著  
ミ礼グア書房 2010

「ジェンダーに関わる多領域をカバーする」「女性の人生の節目を取り上げる」「最新の法律等の情報を盛り込む」を基本方針として女性をめぐる現代社会の問題についてやさしく解説




**お母さんは忙しくなるばかり**  
More Work for Mother  
ルース・シュウォーツ・コーワン著  
法政大学出版局 2010

テクノロジーの進化とともに、家事労働が主婦に集約され、「男女別領域」の教義が確立される皮肉な過程を社会史、技術史の視点から描いた家事労働論



**脱「子どもの貧困」への処方箋**  
浅井春夫著  
新日本出版社 2010

子どもの貧困の現実には正面から立ち向かうのかどうか、今この国に問われている。子どもの貧困の削減・改善に向けての具体的な政策を提起した




**清冽**  
後藤正治著  
中央公論新社 2010

詩集「寄りかからず」「自分の感受性くらい」などで知られる詩人茨木のり子の生涯と、数々の詩を生み出した清冽なる精神に迫る初の本格評伝




**いのちの乳房**  
荒木経惟・STPプロダクト社外著  
赤々舎 2010

乳がん手術で失われた乳房を「乳房再建手術」によって取り戻した19人の女性たちがモデルとなって作った写真集。彼女たちの心の軌跡も綴られ、生きる喜びが伝わってくる




**昭和の家事**  
母たちの暮らし  
小泉和子  
Housework of Showa  
河出書房新社 2010

戦前の主婦たちが当り前にしていた「家事」の貴重な記録集。洗い張りする、洗濯板で洗う、布団をつくるなどの家事から、知恵を育み、鍛えられたのがうかがい知れる



**がんばりが評価される女性の仕事術**  
杉浦里多著  
知ズイバブックス 2010

一生懸命仕事をして、うまくいかないのはなぜか。「ソナがなげばり」と「トクがなげばり」と著者はいう。自分も満足し、評価される仕事術



**冷え克服法**  
川嶋朗著  
イワシツグ 2010

たかが冷え、されど冷え。冷えの症状に悩む人にとっては深刻。本書では徹底的に体を冷やさない、温めるコツを紹介。自ら気づき、自ら実践することが健康の第一歩



## 性暴力・配偶者暴力 無料電話相談

内閣府は、性暴力や配偶者暴力の被害者、その家族や友人のために、2月8日から3月27日まで24時間対応の無料相談ホットラインを設置した。

全国共通番号 0120-941-826 (無料通話)

性暴力被害者のホットラインは初めてで、平成20年の内閣府調査では、性暴力被害者の6割以上が「誰にも相談しなかった」と回答。電話相談を受け、必要に応じて継続相談を決めるほか、病院や捜査機関を紹介する。

## 次世代育成支援対策推進法改正 4月施行

急速な少子化の流れを変えるため、平成17年に全面施行した次世代育成支援対策推進法に基づき、従業員301人以上の企業は、ワーク・ライフ・バランスの行動計画策定などが義務付けられている。4月から改正法の施行により、101人以上の企業にも拡大される。

## 専業主婦 年金切り替え漏れ救済

厚生労働省は、夫が脱サラやリストラなどで退職した専業主婦らの、国民年金への切り替え漏れを救済する方針を決めた。直近2年間に限り記録を訂正し、保険料を請求するが、2年以上前の保険料は支払いを免除する。

## 30代後半男性 親と同居41%

30代で親と同居する人の割合が男女ともに増加傾向にあることが、国立社会保障・人口問題研究所の世帯動態調査でわかった。特に35~39歳男性は平成21年で41.6%と前回調査(平成16年)より8.2ポイント増加した。「晩婚化に加え、経済状況が悪化しているため」と分析している。

## 低出生体重児 妊娠糖尿病高リスク

近年、体重が2500グラム未満で生まれる赤ちゃん(低出生体重児)が、約10人に1人と増えている。要因の一つには、ダイエットと妊娠時の栄養不足が挙げられている。厚生労働省研究班は、低出生体重児は将来、妊娠糖尿病になりやすいとの調査結果をまとめた。

## 練馬区 特別養護老人ホーム、保育所を誘致

練馬区は、年々増加する特別養護老人ホーム(特養)の入所待機者を解消するため、土支田にある学校給食調理場跡地に民営の特養を誘致する。無償で社会福祉法人に貸し付け、平成25年度の開設を予定する。また教職員寮跡地など2か所の区有地を活用し、民営の認可保育所を整備し、平成24年4月開設予定とする。

## 東京都 青少年健全育成条例改正 成立

東京都の青少年健全育成条例改正案が都議会で可決され、成立。慎重な運用を求める付帯決議があった。改正条例は、強姦など刑罰法規に触れる性交や近親者間の性行為などを不当に賛美・誇張した漫画や、アニメを、18歳未満の青少年に販売したり、閲覧させたりしないことを業界の努力義務として規定。都が「不健全図書」と指定すれば、青少年への販売を禁止できるとした。

## 結婚前の妊娠 4人に1人

厚生労働省の「出生に関する統計」が発表され、平成21年中に最初の子どもを産んだ女性のうち、4人に1人が結婚前に妊娠する「できちゃった婚」だったことがわかった。若いほど割合は高くなり、15~19歳は81.5%、20~24歳は63.6%だった。都道府県別では沖縄が最も高い。30歳時点で子どもを産んでいない女性の割合は、昭和54年生まれでは53.9%に達した。

## 人工中絶を繰り返す女性増加

厚生労働省の「男女の生活と意識に関する調査」によると、日本人女性の15.5%が人口妊娠中絶を1回は経験し、このうち2回以上繰り返す「反復中絶」経験者は35.6%にも上っていることがわかった。反復中絶率は、2年前の調査(25.4%)に比べて10ポイント余り上昇している。

## 労働災害 男女平等補償

労働災害で顔などに重い傷跡が残った際の補償額は男女で異なっていた。厚生労働省は補償額の基準となる障害等級の見直しを進めていたが、補償が手厚かった女性に男性を合わせる形で労災保険法施行規則を改正(2月1日施行)。自動車損害賠償責任(自賠責)制度など他の制度でも見直しが進んでいる。

## 国連ウィメン 日本が執行理事国に

男女平等の推進や女性の地位向上に取り組むため、国連女性開発基金など女性に関する4つの機関を統合、設立したのが女性分野の専門機関「国連ウィメン」である。1月から稼働しており、日本は、米国、英国、韓国などととも41か国の執行理事国に選出された。任期は3年。日本は国連の「女性差別撤廃委員会」からは、女性の地位向上のための積極的是正措置を行うことなどで繰り返し勧告を受けている。

